

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 及川正和新会長就任挨拶 2
- 平成 24 年度臨時総会を開催 3
- 岩手山麓土地改良区の誕生 4
- 国の平成 25 年度概算要求に向け要請活動を実施 4
- 菊池 勲氏が地方自治功労により「旭日中綬章」を受章 5
- 平成 24 年度水と里ネット職員研修会を開催 6
- 山王海土地改良区が設立 60 周年記念祝賀会を開催 6
- 岩手県から 3 人が受賞
(平成 23 年度農用地等集団化功労者表彰) 7
- 2012 ため池フォーラム in いわてが開催 7
- 滞納処分アドバイザーのご活用を 8
- 平成23年度 水と里ネットいわて資格取得者について 8

2012 No.560

発行所／岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

編集発行人／田山 清 印刷所／永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

豊作を祈って (二戸市上斗米中沢) 平成22年度「農村景観写真コンクール」応募作品





及川正和 新会長就任挨拶

平素は本会の業務運営に際しまして、特段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

去る6月25日に開催されました平成24年度臨時総会終了後の理事会における互選の結果、不肖私が水土里ネットいわて（岩手県土地改良事業団体連合会）第9代会長に就任いたしました。

もとより微力ではありますが、志操堅固の精神で全身全霊を傾けて、本県農業・農村の振興に精励して参る所存であります。

どうか前高橋会長同様のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願いを申し上げます。

さて、未曾有の東日本大震災から1年と5カ月が経過を致し、被害の甚大さの象徴であり、復興の希望である陸前高田市の奇跡の一本松の保存も決まり、一日も早い復興を願う所であります。

6月初めの県の発表によりますと、5月末までに内陸と沿岸を合わせた復旧対象農地1,190ヘクタールの内、48%に当たる567ヘクタールが復旧したとのことであります。

但し、沿岸部は釜石以南の復旧が進んでおらず、717ヘクタールの内、15%に当たる104ヘクタールに止まっている状況であります。

沿岸部においては、復興はまだ緒についたばかりであることを、改めて思い知らされる結果でありました。

国においては、現行の土地改良長期計画策定以降、農業・農村を取り巻く情勢が変化したことから、一年前倒しにより新たな土地改良長期計画が策定され、本年3月に閣議決定されました。私も臨時委員として一年間参画しております。

この「土地改良長期計画」は、農業・農村を取り巻く大きな情勢の変化を受け、農業の体質強化と東日本大震災からの復旧・復興等に対応した新たな施策展開に資するもので、今後の土地改良事業は本計画に基づき、食料生産の体質強化、震災復興及び農村の防災・減災力の強化、農村の協働力や地域資源の潜在力を活かしたコミュニティの再生といった政策課題の解決に向け、16の施策を集中的に実施するものであります。

7月9日には、本会といたしまして初めて岩手県と合同で、国に対し復旧・復興をはじめとする諸課題についての要請を行ってまいりました。

その席上、實重重実農村振興局長より「被災地の復旧復興は当然であります、厳しい農業・農村整備事業予算の獲得に全力を尽くす」との力強いお話を頂いております。

農業・農村を取り巻く情勢が大きく変化する中で、会員からの新たな要請、負託に応えるとともに、本県の農業・農村整備を技術面から支援していくために、不断の努力を積み重ね、本会の組織体制の維持発展を図っていかなければなりません。

そのためには、従来にも増して会員の皆様をはじめ、関係機関との緊密な連携強化を図りながら、役員一丸となって新たな事業展開に向け、努力してまいる所存であります。

今後とも、より一層のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 24 年度臨時総会を開催

▶新役員 3 名を補選し新体制でスタート

本会では 6 月 25 日、役員補欠選任を議題とする臨時総会を開催し、新役員 3 名を選任した。

開会にあたり田沼 齊会長職務代理者は「昨年の大震災に対応する中で、本会が果たすべき役割を再認識した。新たな農業農村づくり、本県の復興に向け役職員一丸となって取り組んでいく。会員各位の更なるご支援とご協力をお願いしたい」と述べた。

続いて、米川次郎安代土地改良区理事長が議長となり役員欠員に伴う選任が行われ、役員 3 名が満場一致で選任された。

また、臨時総会終了後に行なわれた理事会並びに監事会において新会長に及川正和 胆沢平野土地改良区理事長、総括監事に黒澤金一 一方井土地改良区理事長をそれぞれ互選した。



会長 及川 正和
(胆沢平野土地改良区)
新任 (前理事)



理事 渡邊 幸貫
(江刺猿ヶ石土地改良区)
新任 (補欠選任)



総括監事 黒澤 金一
(一方井土地改良区)
新任 (前監事)



監事 佐々木政實
(藤沢土地改良区)
新任 (補欠選任)



監事 小田島峰雄
(猿ヶ石北部土地改良区)
新任 (補欠選任)

【岩手県土地改良事業団体連合会 役員】

職名	氏名	所属	広域振興局	備考
会長	及川 正和	胆沢平野土地改良区理事長	県南	新任 (前理事)
副会長	田沼 齊	越前堰土地改良区理事長	盛岡	7月27日土地改良区合併により退任
副会長	菊池 勲	岩手中部土地改良区理事長	県南	
専務理事	田山 清			学識経験者
理事	阿部 克郎	照井土地改良区理事長	県南	
理事	平賀 巖	豊沢川土地改良区理事長	県南	
理事	高橋 勘一	山王海土地改良区理事長	盛岡	
理事	川村 良治	山田町土地改良区理事長	沿岸	
理事	山下 正勝	馬淵川沿岸土地改良区理事長	県北	
理事	渡邊 幸貫	江刺猿ヶ石土地改良区理事長	県南	新任 (補欠選任)
総括監事	黒澤 金一	一方井土地改良区理事長	盛岡	新任 (前監事)
監事	佐々木 政實	藤沢土地改良区理事長	県南	新任 (補欠選任)
監事	小田島 峰雄	猿ヶ石北部土地改良区理事長	県南	新任 (補欠選任)

岩手山麓土地改良区の誕生

▶ 越前堰・岩手山麓南部・玉山土地改良区が合併

7月27日（金）、盛岡地区合同庁舎8階大会議室において、「岩手山麓土地改良区」の設立認可指令書の交付式が行われ、菊池正佳盛岡広域振興局長から田沼 齊 岩手山麓土地改良区設立委員会委員長に設立認可指令書が交付された。

岩手山麓土地改良区は、地区面積2,908ha、組合員2,591人、職員13人と県内でも有数の土

地改良区となる。

設立認可指令書交付式後、土地改良区設立祝賀会が盛岡市内で行われ、関係者71名が出席した。

田沼理事長は「組合員の付託に応えるため、役職員が関係各位の意見を頂戴しながら精一杯努力していきます。」と挨拶した。

事務所は滝沢村に設置される



が、当面は旧岩手山麓南部土地改良区を仮事務所とする。この合併・解散によって県内の土地改良区は47団体となる。



【祝辞を述べる本会菊池副会長】

国の平成25年度概算要求に向け要請活動を実施

▶ 農業農村整備事業の着実な推進を要請

本会では、7月9日、農林水産省に対し、及川正和新会長の就任挨拶を行うとともに、県と合同による国の平成25年度予算概算要求に向けた「農業農村の着実な推進に関する要請」を行いました。

實重重実農村振興局長、林田直樹次長をはじめとする農水省の幹部に、「東日本大震災の復旧・復興に向けた継続的な支援」、「農業農村整備事業予算の確保」など5項目について要請し、實重局長からは、「被災地の復旧・復興は当然として、平成22年度以降、厳しい状態

が続く農業農村事業の予算獲得に全力を尽くしたい」との力強いコメントをいただきました。

また、本会役員と本省各課との意見交換会を行い、本県の実情を説明した後、それに対する回答として、担当課から国における状況等について説明をいただきました。

菊池副会長が、「被災土地改良区への支援に対し、感謝すると共に継続した支援をお願いする」と述べたほか、各役員からは「国営事業の推進」や「小水力発電に対する支援」などの要請を行いました。



【挨拶をする實重局長】 【要請を行う及川会長】

この意見交換会は、本会として初めて開催しましたが、岩手県から沼崎光宏農村整備担当技監、伊藤千一農村建設課総括課長、長山政道農村建設課技術主幹等の出席をいただいて、国に本県の実情を詳細に訴えるなど、非常に意義深いものとなりました。



【意見交換会の様子】

～平成 24 年 春の叙勲～

菊池 勲氏が地方自治功勞により「旭日中綬章」を受章

(岩手県土地改良事業団体連合会副会長・岩手中部土地改良区理事長)

平成 24 年春の叙勲において、菊池 勲氏が栄えある旭日中綬章を受章され、授賞式が 4 月 29 日に皇居で行われました。

この度の叙勲は、菊池氏の長年にわたる地方自治における功勞が認められたものです。

菊池氏は昭和 46 年 8 月から平成 3 年 3 月までの 19 年余、旧和賀町議会議員を務められ、その間、7 年 5 ヶ月にわたり議会議長として町の発展に力を注がれました。

その後、平成 3 年 4 月から平成 23 年 9 月まで 5 期 20 年余、岩手県議会議員として県勢の発展に貢献されました。この間、議会副議長を 2 年余にわたって務められ、議会運営に尽力されました。



一方、農業振興においては、平成 15 年 10 月～平成 23 年 9 月まで岩手県議会の農業農村整備推進議員クラブ会長として、さらに平成 23 年 9 月からは、岩手県土地改良事業団体連合会の副会長として、本県の農業農村整備の推進に貢献をいただいております。

旭日中綬章という大変名誉ある章を受章されましたが、この受章は、菊池氏のご功績はもちろん、ご家族の皆様のご支援の賜物でもあり、重ねてお祝いを申し上げます。

健康に留意され、今後は農業振興を通じての地方の振興にご指導、ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

岩手県土地改良事業団体連合会

平成24年度水土里ネット 職員研修会を開催

▶ 土地改良区が抱える 諸課題への取組みを研修

水土里ネットいわてが主催する「平成24年度水土里ネット職員研修会」が6月19～20日の両日、花巻市の「ホテル千秋閣」で土地改良区の職員約50名の参加の下、開催された。

主催者挨拶で本会の本宮事務局長は「本研修では、土地改良区が直面している賦課金の滞納についてどのように解決していけば良いかの方策等について学んで欲しい」と述べた。

研修の最初は、「土地改良区の諸課題」と題して岩手県農林水産部農村計画課の佐藤主任主

査及び坂本主査から、維持管理計画書の作成、中期財政計画の策定、複式簿記の導入などについて説明を受けた。



【土地改良区の諸課題を説明する佐藤主任主査】

次に、岩手中部土地改良区の佐藤辰男氏が「未収賦課金への取組み」と題し、同土地改良区が行った債権（戸別所得補償の交付金）の差し押さえや差し



押さえた物件（水田）の公売について実例を紹介した。



【公売の手続を説明する佐藤氏】

翌20日には「平成23年度農業農村整備広報大賞受賞」と題して、須川土地改良区の千葉正人氏が受賞に至った経緯や「須川あいランドふれあい祭り」の取り組み状況等について事例発表を行った。

山王海土地改良区が 設立60周年記念祝賀会を開催

▶ 「豊かな水」を次世代へ繋ぐ

山王海土地改良区（高橋勲一理事長）では7月2日、紫波町ラ・フランス温泉館「ホテル湯楽々」において設立60周年記念祝賀会を開催した。

祝賀会には、来賓の東北農政局北上土地改良調査管理事務所長はじめ、関係者104名が出席した。

挨拶で高橋理事長は、「当地域は、江戸時代から水不足で水争いが絶えなかったが、戦後に

山王海ダム、平成になって葛丸ダムが完成し、水争いがなくなり平安が訪れた。水の有効利用を図れる日本で唯一の「親子ダム」として地域に貢献してきた。今後も農業用施設の持つ多面的機能を存分に発揮させ、地域と共に発展していきたい」と述べた。

来賓として出席した本会菊池勲副会長（会長代理）は、「施設の維持管理における山王



海の取組みは岩手県内でも先進的な存在であり大いに学ぶべきものがある。今後とも農地と水を守り地域農業の発展にご尽力いただきたい」と祝辞を述べた。



【来賓祝辞を述べる菊池副会長】

岩手県から3人が受賞

▶平成23年度農用地等集団化功労者表彰式が秋田市で開催



【左から本会田山専務理事、館澤主任、戸来主事、高橋主事、本会田沼副会長】

平成23年度農用地等集団化事業優良地区・功労者表彰式が6月8日、秋田市で行われた。

この表彰は、ほ場整備事業等を行った地区において農用地等の集団化の成績が優良で、他の模範となる団体や、農用地集団化事業の推進に貢献した功労者

を表彰するもので、各県から8地区、10名が表彰された。

本県からは、功労者として豊沢川土地改良区の戸来恵美主事、江刺猿ヶ石土地改良区の高橋邦夫主事、さらに本会の館澤克美主任が受賞した。

なお、表彰の主催者である東

北農業農村整備推進協議会は、今回の第12回通常総会をもって解散となったため、今後の本表彰は東北・北海道土地連絡協議会に引き継がれることとなった。

2012 ため池フォーラム in いわて が開催

▶「東日本大震災津波からの復旧・復興に向けて」がテーマ



2012ため池フォーラム in いわてが7月19日、盛岡市の盛岡市民文化センター大ホールで開催された。全国の自治体や土地改良区等の関係者ら約600人が参加。ため池保存を通じた結いの精神について考えた。

パネルディスカッションでは、花巻市の松島園管理運営協議会の高橋正芳会長と、一関市花泉町の中村水利組合の佐藤敬一郎氏、県農林水産部農村建設課の伊藤千一総括課長をパネリストに、地域とため池との関わ

り方、保存や継承について意見交換を行った。

松島園では、交流会など多彩な催しが行われるなど、憩いの場としても親しまれている。

また、一関市花泉町には、ため池が約3千カ所あり、佐藤氏は「結いの精神を大切にため池を残す」と決意を語った。

震災後、陸前高田市から一関市に拠点を移し、醤油加工品を製造・販売する八木澤商店の河野和義会長が、「ふるさとは負けない」と題して基調講演を行

い、「絆は本音をぶつけ合うことから始まる」と話した。



【講演する河野会長】

20日は沿岸部の被災地域等3コースに分かれ現地視察が行われた。